

昭和60年度 放流技術開発事業 (放流漁場高度利用技術開発・あわび類) (要 約)

桐原 慎二・足助 光久・能登谷正浩

下北郡風間浦村を対象にアワビ害敵生物等の出現状況の整理、種苗放流効果の把握及び時期別放流試験を行った。なお、詳細については「昭和60年度 放流技術開発事業（放流漁場高度利用技術開発・あわび類）報告書」（昭和61年3月 青森県）として報告した。

調査海域におけるエゾアワビの競合生物及び害敵生物を既存資料等から整理した結果、餌料面での主要な競合生物としてはキタムラサキウニ、エゾバフンウニ、主要な害敵生物としてはミズダコ、ヒトデ類、アイナメ、ウミタナゴ、クロソイが考えられた。

種苗放流効果の把握を目的に調査海域の下風呂、易国間及び蛇浦の3漁協における漁獲アワビ貝殻を収集し、放流貝の混獲率を調査した。この結果、調査した各漁協漁獲貝18,552個、15,805個及び24,990個中に放流貝が各々414個、17個及び312個確認され、混獲率は各々2.2%、0.1%及び1.3%となった。各漁協とも放流場所を禁漁区としており、混獲された放流貝は放流場所から移動した貝に限られたことから混獲率は低い値を示した。

放流適期の検討を目的に、標識放流試験を行った。60年10月18日～20日に4,972個体（白色標識貝1,992個体、黄色標識貝984個体、青色標識貝998個体、対照群998個体）のエゾアワビ稚貝（平均殻長22.8mm、平均体重1.6g）に個体標識を貼付した。このうち黄色及び白色標識貝（995個体）を60年11月15日に、下風呂地先水深7mの地点に潜水放流し60年秋放流群とした。このほかについては61年春に行う放流までの期間、風間浦村鮑増殖センターにて給餌飼育している。なお、白色標識貝は63年春に、このほかの色の標識貝は放流1年後に各々潜水回収し、放流時期別の生残、成長を比較する予定である。